

第8回日印インド太平洋フォーラム

ナマスカル（Namaskaar）、おはようございます。外務副大臣の国光あやのです。日本政府を代表して、第8回「日印インド太平洋フォーラム」の開催をお祝い申し上げます。

また、本フォーラム開催に御尽力いただいた佐々江国問研理事長、シン・デリー・ポリシー・グループ（DPG）所長他関係者の皆様に御礼を申し上げます。

高市政権が発足して1週間と経たないうちに、日印外相会談が行われ、その2日後には、高市総理とモディ首相との間で電話会談が行われました。これは、日本がインドを重視している証左です。首脳と外相レベルでそれぞれ、先般のモディ首相訪日の成果を踏まえ、日印間の協力を具体的に進めていくこと、そして、「自由で開かれたインド太平洋（F0IP）」の実現に向けて連携していくことを確認しました。

高市総理がモディ首相に伝えたとおり、「日印特別戦略的グローバル・パートナーシップ」の新たなゴールデン・チャプターを築いていくべく、日本政府一丸となって、関係強化に努めていきたいと考えます。

国際社会は、ロシアによるウクライナ侵略、中東情勢、厳しさを増す安全保障環境など、多くの困難に直面しています。また、「グローバル・サウス」と呼ばれる国々が成長し、激しさを増す地政学的競争が、気候変動や感染症といったグローバルな課題と絡み合う複雑な状況にあります。

このような時代にこそ求められるのは、「多様性」、「包摂性」、「開放性」の尊重です。「法の支配を重んじ、多様な国家が共存共栄する世の中を、皆で築いていく」、日本はこの理念に立脚した F0IP を推進しており、これは本日のフォーラムで扱わ

れる地域間協力とも深く関わるものです。そしてインドは、こうした取組を進めていく重要なパートナーです。

成長著しいインドは、日本の経済界からも熱い視線を送られています。国際協力銀行が昨年実施した調査によれば、インドは日本企業にとって最も関心の高い投資先とされています。日印両国が協力することで、更なる成長を遂げることができます。

こうした考えの下、本年8月のモディ首相の訪日の際に、「今後10年に向けた日印共同ビジョン」を発表しました。日印安全保障協力に関する共同宣言も改定し、インド太平洋地域の平和と安定の実現という共通の目標に向け、より大きな責任を果たしていくことを確認したところです。

こうした取組を前進させるためには、本日ご参加いただいている皆様を始め、産官学それぞれの立場からの協力が不可欠です。本フォーラムが、今後の具体的な取組に重要な示唆を与えるとともに、良い連携の場となることを期待し、私の挨拶とさせていただきます。ダンニャワード（Dhanyawaad）。ご清聴、誠にありがとうございました。

（了）